

留学体験談

ショートプログラム（オタゴ大学英語研修）

農学部 谷口 裕城 さん

私はニュージーランドのオタゴ大学で約40日間の英語研修に参加しました。
語学力の向上と異文化交流・体験の2つが本研修に参加しようと考えた主な理由です。海外の文化を体験し自分の価値観を見直すことでより精神的に豊かな生活を送りたい、という考えが以前からあり、海外の文化を体験する手段としてホームステイがとても良いと考えました。また、海外の文化を十分に体験するためには、現地の人と話すことのできる語学力が必要になります。以上のことと夏休み期間で大学の講義に影響が出ないことから本研修を選択しました。
午前中は事前に行うテストで分けられたクラスで英語の4技能の学習に加えプレゼンテーションなどを行いました。文法や単語の課題があり、週に1回ほど確認テストをしました。午後は先住民のマオリなどニュージーランドについて幅広く学びました。授業は月～木曜

日は15時、金曜日は12時に終わるため、その後は自由時間でした。大学の運動施設でバドミントンやフットサルをしたり、中心街に行き買い物をしたりしました。休日に見に行ったペンギンやアシカ、観光列車で味わった大自然、迫力を感じたラグビー観戦が良い思い出です。放課後に何回も行ったROB ROY DAIRYというお店のホーキーボーケー味のアイスクリームはとてもお気に入りです。
英語が上達する方法は話すことだと考え、現地ではホストマザーやルームメイトの中国人留学生と積極的に会話をしました。家に帰ったらその日の出来事や学校で学んだことを、食事中には社会的な話題や各国の文化について話しました。単なる英語の実践ではなく、異文化を背景に持つ人の考え方を学ぶことができました。
最低限の英語力は必要になりますが英語は現地でかなり上達するので、最も必要になるのは精神力だと思います。私は渡航後直ぐに体調を崩して3日ほど寝込みとても不安になりました。

他にも初めて経験する困難が多くありましたが、気負わない・楽しむという気持ちが大事だと感じました。最後になりますが、皆様の留学が有意義な時間になるように願っています。



ショートプログラム（西シドニー大学国際交流プログラム）

工学部 スコット瑠玖オオシマ さん

2023年夏、私は西シドニー大学の国際交流プログラムに参加しました。この経験は未踏の南半球で新しい冒険を求め、広い視野を得るためのものでした。西シドニー大学では、私は基本的な英会話スキルと持続可能な開発目標（SDGs）についての理解を深めました。この機会を通じて、地球の未来に向けて私たちが果たすべき役割を考えることができ、非常に有益な時間となりました。
シドニーに行って最も印象的だったのは、オーストラリア固有の生態系でした。多様で美しい自然環境に触れ、オーストラリアの人々が環境保護に対して熱心であることを感じました。未知の植物や鳥たちとの出会いから、私たちが環境保護に取り組む必要性を再認識しました。この経験はSDGsに対する理解を深め、地球全体への貢献の大切さを強く感じさせられました。

さらに、オーストラリアでは異なる文化を持つ人々が共存し、町の豊かさを生み出しています。異なるバックグラウンドを持つ人々がお互いを尊重し、温かく迎え入れる様子に感銘を受けました。異文化交流が日常の一部となっており、多様性を受け入れる姿勢が根付いていることが分かりました。初めて海外に渡航する人でもなじみやすい環境で、現地の人々とのコミュニケーションは非常に楽しく、英語スキルの向上を感じました。これにより、自分の言葉で考えを明確に表現できるようになり、英語に対する自信が飛躍的に向上しました。
この交流プログラムは私にとって、言語スキルの向上だけでなく、持続可能性への理解や異文化への開かれた心を育む上での重要な一歩となりました。オーストラリアでの貴重な経験は、将来のキャリアや人生においても大いに役立つでしょう。

う。海外未経験者でも楽しめ、充実した経験が得られる西シドニー大学の交流プログラムをお勧めします。



ショートプログラム（韓国サマーセミナー）

人文学部 佐藤 光太郎 さん

私が韓国に行きたかった理由は好きなK-POPを堪能すること、韓国ドラマで見た町並みに憧れていたということ、韓国の人々を知りたかったことです。韓国は過去も現在も日本とは切っても切れない関係にあります。実際に行ってみると思っていたこととのギャップを感じることも多くあります。百聞は一見に如かず。自分の五感で実際に体感することの重要性を改めて感じることができました。
授業は朝から昼過ぎまであります。授業形態は日本人10人ほどで、すべて韓国語で進みます。私は韓国語ビギナーで初級クラスだったため、最初はとても混乱しましたが、日がたつにつれだんだん慣れていきました。ですので、留学前の語学レベルは心配いりません。どれくらい語学力が向上するかは、周りに韓国語が溢れているのでやる気次第です。午後は2日に1日は特別授業で、もう1日は文化体

験でした。特別授業では、K-POPや韓国ドラマなどから実用的な韓国語を学びます。文化体験では、観光、文化体験をします。漢陽大学の同年代のチューターもついてくれ、韓国の街を案内してくれました。私の班ではチューターから別の観光スポットにも連れて行ってもらったり、夕食と一緒に食べたりするなど、とても仲良くなりました。日本に帰ってきてからも他の参加者やチューターとは交流が続いています。
私は今回のプログラムで初めて海外に行きました。日本を外から見られたのは、とても大きな成果だと思います。日本のあたりまえが他の国ではあたりまえではないこともあると気づき、あたりまえであることを大切にしようと思いました。また、言葉が通じなかったり、土地勘がなくても、なんとか打開しようと考え、ときに人の助けを借りながら行動するという自分の中でのプロセスを確立できました。

期間としては17日間でしたが、毎日が刺激的で2、3か月いたくらいの充実感・満足感を得ることができました。忘れることはないであろう、自分史上最高の8月になりました。



これ以外の留学体験談は、ホームページで Check!
〈HP〉「新潟大学 国際交流・留学」⇒「海外への留学」⇒「留学体験談」
▶ <https://www.niigata-u.ac.jp/international/study-abroad/student/>



交換留学（フランス・ナント大学）

法学部 前野 綾香 さん

私は、大学2年生の9月から翌年5月の2学期間、フランスのナント大学付属の語学学校であるi-FLEに交換留学をしました。留学を決めた理由は、フランス文化に関心があり初修外国語でフランス語を選んでいたり、国際機関で働く夢があり英語以外の語学力を伸ばしたかったことなど様々あります。
大学の授業はすべてフランス語で行われ、多種多様な背景を持つ学生と積極的にディスカッションをしたり、プレゼンをしたりする機会が多くありました。また、歴史、音楽等から選択できる授業もあり、私は「食文化」の授業を履修しました。授業では、自国の食文化を話したり、ワインやチーズの試飲・試食をする機会があり、フランスだけでなくフランス以外の食文化もより深く知ることができたと思います。
ナントは東西南北に路面電車が走っているため、気軽にいろいろな場所に行くことができます。その

ため、放課後はよく友人と散策や、公園で勉強したりしていました。またフランスは美術館や博物館が学生料金で安く入場できるので、美術館に行き作品紹介をフランス語で読むことを日課にしていました。
留学当初は、フランス語のスピードに慣れず、会話もたどたどしいものでした。特に、発音に関しては、日本語にない発音があるので苦労しました。しかし、何度も発音の練習や、外に出ていろいろな人と出会い、話をするを通じ、徐々に自信を持ち、日常会話や議論を問題なくできるようになりました。
留学中は、コロナ収束前のため規制があったり、年金改革に伴うストライキが多発したりと様々なトラブルに見舞われましたが、それら全部含めてかけがえのない経験だったと思います。留学を決めなかったら出会えなかった人に会えたことは私の一生の宝物です。
このように留学でしか得られない経験がたくさんあると思うので、少しでも留学に興味があったら、ぜひ挑戦していただきたいです！



交換留学（アメリカ・カリフォルニア州立大学ソノマ校）

人文学部 岡村 優乃 さん

留学先は、カリフォルニア州立大学ソノマ校で、1学期間の留学でした。自然豊かな大学で学業に集中したかったためこの大学を選びました。留学の目的は、英語力の向上、ジェンダーの分野の学びを深めること、英米文化について文学作品の分析や研究、捉え方の方法を学ぶことです。現地の学生とコミュニケーションを取りながらアメリカの大学で授業を受けて生活することは長年の夢だったのでこのような機会に恵まれ、すごく幸せでした。
留学先では、英米文学とジェンダーに関する授業を履修しました。英米文学は、新潟大学での専攻でもあり、文学作品のテキスト分析やプレゼンを行いました。ジェンダーの授業では、文献や本をもとにグループでの意見交換を行い、LGBTQやクィアに関する重要な概念について学びました。毎回の授業の予習・復習、週末課題、学期中3回の定期課題と、

平日は勉強でとても大変でした。その分、休日は学校のジムに行ったり、友達と出かけたり、寮で映画を見たりと充実した日々を過ごしていました。また、ソノマ校には留学生と現地の生徒を繋ぐバディプログラムがあり、私は素晴らしいバディーと出会うことができました。語学は、リスニングとリーディングは特に伸びた感じといて、スピーキングについても友達と日常会話ができるくらいには上達したと感じています。
寮での共同生活や、ハロウィン、Thanks Giving、クリスマスなどの文化を友達と一緒に体験したり、旅行へ行ったり、いろいろと経験しました。また、学業では、自分の専攻につながるより深い学びができたと感じ、卒業論文でも、留学中の学びを生かして取り組みたいと思っています。留学で現地の生活や文化の違いを体験することができ、テキストだけでは知ることのできないリアルな英語に触れることができます。そんな体験をしたい人はぜひ留学に挑戦してみてください。



トビタテ!留学 JAPAN 新・日本代表プログラム（スウェーデン・アメリカ）

第15期生 経済科学部 今井 咲希 さん

私は「女性と社会との架け橋をビジネスで作りたい」という夢があります。高校時代の留学をきっかけに、売春で生活するフィリピン女性を支援する活動に携わるようになり、持続可能な支援を志し19歳で起業しました。夢の実現のため、約半年間、女性の社会進出が進んでいるスウェーデンとアメリカで、女性が活躍する社会をテクノロジーで実現するソーシャルビジネスを実践的に学ぶ留学でトビタテに採用され、現在1か国目のスウェーデンに滞在中です。トビタテでは、自己の主体性を尊重されるインペーターコースを選択し、現地のスタートアップ企業でのインターンシップや自分自身のビジネスを構築するための内容で留学計画を立てました。
現在、スウェーデンでは、女性や移民女性のエンジニア教育を推進するITスタートアップ企業でインターンシップとして働き、ワークショップやPOPUPの開催を手伝ったり、日本を含めアジアのトレンドリサーチや就労支

援などを担当しています。
多くの会社訪問やイベントにも参加したことにより、そこで出会った仲間達と共に女性のリーダーシップに焦点を当てたプロジェクトを立ち上げることができました。
内容は、主に女性の起業家を訪問し彼女たちが起業という選択をとる際でどのようにして子育てや自分自身の生活とのライフバランスをとっているのかを調査し、その統計データを自己啓発を目的としたアプリとして開発することです。進行中でもあるこの活動により、働き方や女性の生き方、個々の尊重、意見など、さまざまな環境の中で見えてくる価値観の違いを学ぶことができたと同時に、フィリピン社会構造の課題について再認識しました。この後のアメリカでは、スウェーデンでの経験を基にワークショップの開催を予定しています。
留学は予想していたものとは少し異なる現実でした。予定通りに進まないことや、自分の英語力や能力の不安に苦しむことも多かったです。しかし、そうした時こそ自分と向き合い、今この大学生生活期間で留学できることの貴重さや、留学を決意した目的を改めて考えるように

しました。今しかできないことに挑戦できる環境にとても幸せを感じています。

